

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	英語英文学科	夜・通信	92	なし	20	95	13	
	日本語日本文学科	夜・通信			38	113	13	
	現代社会学科	夜・通信			22	97	13	
人間生活学部	人間生活学科	夜・通信	92	なし	131	206	13	
	児童学科(1・2年生)	夜・通信			197	272	13	
	児童学科(3・4年生)	夜・通信			205	280	13	
	食品栄養学科	夜・通信			46	121	13	
(備考) 児童学科は入学年度により対象科目が異なるため分けて記載した。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.ndsu.ac.jp/department/syllabus.html">https://www.ndsu.ac.jp/department/syllabus.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 実務家教員をすべての学部に配置している。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人ノートルダム清心学園ホームページで公表  
[https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/images/document2/document\\_2.pdf](https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/images/document2/document_2.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	公益財団法人 大原美術館 理事長	自：令和元年5月23日 至：令和5年5月22日	外部理事として意見と評価
非常勤	(株)三好野本店 代表取締役社長	自：令和元年5月23日 至：令和5年5月22日	外部理事として意見と評価
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成にあたっては、毎年、シラバス記入要項に基づきFDを複数回開催している。シラバスの点検は本学独自のシラバス作成セルフチェックリストを作成し、作成者自身が確認を行うとともに、教務係職員及び各学科の教務担当教員が確認している。</p> <p>これらの取り組みにより、全学的に統一された様式で、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、毎年3月に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.ndsu.ac.jp/department/syllabus.html">https://www.ndsu.ac.jp/department/syllabus.html</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記し、学生からの質問や疑問には各担当教員が対応している。</p> <p>成績評価は、授業の形態(講義、実験、実習、演習、実技等)に対応し、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。</p> <p>さらに、本学では、全学生に卒業論文を必修としている。卒業論文は4年間の学びの集大成として位置づけられ、その作成にあたっては、少数ゼミ方式で実施し、口頭試問など、きめ細やかな指導を行い、生涯にわたって知的・実践的探求を進めていくための基本的能力を涵養しており、その単位認定にあたっては、公開による論文発表会を開催し、厳格に審査している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  
 本学では「成績等の評価とGPA制度に関する規程」に基づき、指標を設定・公表するなど適切に運用している。

【GPAの指標】

評語及びグレード・ポイント並びにその基準等は次表のとおり。

標語	評点	評価内容		GP
秀	100～90	合格	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を修めている。	4
優	89～80		到達目標を十分に達成している。	3
良	79～70		到達目標を一定程度達成している。	2
可	69～60		到達目標を最低限達成している。	1
不可	59～0	不合格	到達目標を達成していない。	0
放棄	—	不合格	出席が規定の授業回数 $\frac{3}{2}$ に満たない場合など、評価の対象とならない場合。	0
認定	—	合格	他大学において単位を修得した科目等の単位を認定する場合。	対象外
不認	—	不合格	不認定。 履修科目登録単位上限に含まれる科目を、単位互換制度において履修し評価が不合格だった場合。	対象

【GPAの算出方法】

通算 GPA =  $\frac{\text{全期間の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{全期間の履修科目単位数の総和}}$  の総和

年度 GPA =  $\frac{\text{当該年度に成績評価が行われた履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該年度に成績評価が行われた履修科目単位数の総和}}$  の総和

学期 GPA =  $\frac{\text{当該学期に成績評価が行われた履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該学期に成績評価が行われた履修科目単位数の総和}}$  の総和

※小数点以下2位未満の端数があるときは、小数点以下第3位の値を四捨五入

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<https://www.ndsu.ac.jp/about/research.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、2016年度の認証評価結果を受け、2017年度に学長諮問会のもとに、卒業の認定に関する方針を含めた3つのポリシー策定委員会を設置し、3つのポリシーの見直しを行った。卒業の認定に関する方針を含めた3つのポリシーについて、教授会等の審議を経て2018年3月に改定し、学生便覧等で学生に周知するとともに、ホームページで公表している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a> ※計算書類に掲載
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a> ※計算書類に掲載
財産目録	<a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a> ※計算書類に掲載
事業報告書	<a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a> ※事業報告書に掲載
監事による監査報告(書)	<a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a> ※計算書類に掲載

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画 対象年度: 2020年度)
公表方法: <a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a>
中長期計画(名称: 中期計画 対象年度: 2020年度~2024年度)
公表方法: <a href="https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/">https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/</a> ※ノートルダム清心学園の取り組みに掲載

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html</a> <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/pdf/result/2017accreditaion_result.pdf">https://www.ndsu.ac.jp/about/pdf/result/2017accreditaion_result.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部英語英文学科
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a> )
(概要) 本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、英語運用能力の向上とともに、英米文学、英語学・言語学及び国際コミュニケーションまた関連分野の学問を学修・研究し、さらに一般教養も身につける。それによって、自他双方の人生を豊かにする学生個々人の全人的人格形成をはかり、それを通して国内外において社会に貢献できる有為な人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a> )
(概要) <b>【知識・技能】</b> 英語という言葉、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通じた相互理解ができる語学的な知識と聞き、話し、読み、書くという英語の運用能力を有する。  <b>【思考力・判断力・表現力】</b> 英米文学、英語、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析する力や再構築するための論理的思考力、理解力を有する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、自分で考え、判断ができる能力を有する。英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を持っている。  <b>【関心・意欲・態度】</b> 異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、貢献する意欲を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a> )
(概要) <b>【知識・技能】</b> リベラル・アーツの精神に基づき、1・2年次は専門分野を決定する準備段階として、学科の履修科目を「基礎科目」と「専攻科目」の2つに分類し、前者によって、英語の運用能力、後者によって、英語圏の文学、文化、言語、コミュニケーションについての専門知識を修得し、これらを自ら活用する力を獲得できるようなカリキュラムを構成する。また、2年次には、「英米文学」「英語学・言語学」「国際コミュニケーション」の3つのコースの基礎となる科目群を自由に選択できるように配置する。そして3年次から専攻分野に分かれ、3つの履修コースのいずれかを専攻する学生に専門的知識をいっそう深化させることができる科目群を配置する。英語という言葉、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションを理解し、英語による相互理解ができる運用能力をはぐくむのに十分な科目群を配置する。(基礎科目群、学科専攻科目群など)  <b>【思考力・判断力・表現力】</b> 英米文学、英語という言葉、英語圏のコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析し、再構築するための思考力を育成するために学科専攻科目を配置する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、

自分で考える力を育成するために、講読、演習、研究などの学科専攻科目を配置する。英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を育成するため、演習・研究等の少人数の学生による発表を伴う専攻科目群を配置する。

**【関心・意欲・態度】**

異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、貢献する意欲をはぐくむための科目を配置する。(海外英語演習や、自立力育成科目・ボランティア科目など。)

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html> )

(概要)

**【知識・技能】**

英語を中心として、高等学校卒業相当の知識を有している。

**【思考力・判断力・表現力】**

広い視野に立って、物事を多面的かつ論理的に考察し、判断できる。また、自分の考えをわかりやすく表現し伝えることができる。

**【関心・意欲・態度】**

英語圏の文学、文化、言語に強い関心を持ち、異なった文化、社会、価値観を持つ人々を理解しようとする態度と国際社会に貢献する意欲を有している。

学部等名 文学部日本語日本文学科

教育研究上の目的 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html> )

(概要)

「ことば」の様々な側面を、日本語を核とする日本文化全体の視野から見つめ直すことを目標とする。具体的には、日本語・日本文学や、書道・国語教育などの言語文化の研究を行なう。それらの研究を通して、問題意識を高め、資料を用いた論理的方法によって課題探求をし、柔軟な思考力と判断力を養う。それによって、自らの内面と「ことば」を磨き、発信のできる人材の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html> )

(概要)

**【知識・技能】**

学科専門科目の履修を通して、日本文学、日本語学、言語文化の知識と方法を修得するとともに、全学共通科目の履修を通して、幅広い教養と世界の言語・文学・文化についての多様な視点を身につける。

**【思考力・判断力・表現力】**

日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する研究を通して、問題意識を高めることで問題発見力を養い、資料を用いた論理的方法と思考によって課題探究をし、柔軟な思考力と判断力を身につけている。それを通して、人間を見つめる豊かな知性と感性の涵養のもとで、自らの内面と「ことば」を磨き、リテラシーと教養を基盤とした表現力を高め、発信することができる。

**【関心・意欲・態度】**

日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野を総合的に見渡すことのできる広い視野と、自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力をもって、積極的に社会や他者のために貢献する意欲がある。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【知識・技能】</b>          古典籍を活用し歴史的文化への理解を深め、古典文学・近現代文学を素材として人間の思想や感情とその表現の理解を試みる(日本文学分野)。          現代のコミュニケーションのあり方を探究し、日本語のしくみについて考える(日本語学分野)。          言語による表現力を養うことを目指し、日本文学・日本語学の学びを応用して国語科・書道科教員としての実力を養成する(言語文化分野)。          日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、幅広い専門的・教養的視野に立って、日本の言語・文学・文化を把握することができる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>          学教科目において、専門的なテーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を行い、文学・語学の感性を磨くとともに、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見力、問題解決力、表現力を高める。</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b>          現代的な問題意識を持って日本の言語、文学、文化を総合的に見渡すことのできる広い視野を養う。専門テーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を通して、自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力を高める。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【知識・技能】</b>          国語を中心として、高等学校卒業相当の知識を有している。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>          読解・分析・発表・討論を行うための日本語の確実な理解・表現能力と情報や知識を総合的に捉える論理的思考力を有している。</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b>          多様な日本の文化や文学及び日本語に対して強い関心を持ち、その本質を深く探究しようとする意欲を持っている。          自らの内面や思考力・表現力を高めることをめざし、他者と協働して積極的に社会に貢献する意志を有している。</p>

<p>学部等名 文学部現代社会学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>現代社会の諸現象が生起する仕組みを分析する社会学と、人間社会がここに至った過程を研究する歴史学を方法的支柱として、多方面から社会について考察する。また社会学的方法と歴史学的方法をあわせ学ぶことで人間社会の過去と現在とにわたる幅広い視野を獲得すると同時に、履修コース制によっていずれかの学問領域について深く研鑽することを求め、社会に関する広範な学識と専門性を兼ね備えた人材の育成を目指す。</p>



<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>【知識・技能】</p> <p>社会学と歴史学を中心に、関連学問領域も含め、基本的な知識を総合的・体系的に修得し、史資料・データを収集・分析する技能を獲得するとともに、さらに専門的な学修を通して、過去と現在の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野をもつことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>社会学と歴史学を中心とする総合的・専門的な知識・技能をもとにして、社会のさまざまな課題について、これまでの議論や知見を検討し、史資料・データの分析結果について深く、多角的に考察し、妥当性を判断した上で、その成果を、平易かつ客観的に、論理的な説得性をもって表現することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>過去と現在の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野と、史資料・データの分析を通して得られる力とを基盤にして、社会の諸課題に関心をもって向き合い、多様な人々と調査や議論を通して協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけ、また生涯にわたって社会に貢献する意欲をもつことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：<a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>【知識・技能】</p> <p>学科の基礎科目（現代社会学基礎／社会史基礎、基礎演習、現代社会学基礎演習／社会史基礎演習）と専攻科目（現代社会学領域と社会史領域の各科目群）の履修を通じて、現代社会学、社会史の2つの分野の研究に必要な理論と方法、史資料・データを収集・分析する技能を修得する。また全学共通科目や他学科の学科科目、キリスト教文化研究所開講科目の履修を通して、幅広い教養及び過去と現在の社会に関する多様な知識を学ぶ。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>学科の基礎科目・専攻科目に段階的に配置された演習科目（基礎演習、現代社会学／社会史基礎演習、現代社会学演習／社会史演習、卒業論文）の履修を通じて、基本的かつ専門的テーマに関する情報収集、分析、発表、討論、レポートの作成を行い、社会についての多角的・論理的な思考力と判断力を育み、説得性のある表現力を高める。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>学科の専攻科目に配置された特講科目、演習科目、卒業論文を通じて、現在と過去の社会の諸問題に関心をもって意欲的に向き合い、多様な人々と協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけるとともに、社会の成り立ちと仕組みを見通す専門的視野を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：<a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>【知識・技能】</p> <p>基本的な国語力や英語力、公民や地理歴史の基本的な知識をしっかりと身につけている。とくに現代社会に生起しているさまざまな事象や問題、及び世界や日本の歴史について、高等学校における幅広い学習に基づいた知識と技能を持っている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>現代及び過去の社会におけるさまざまな問題や課題について、高等学校における幅広い学習に基づいた基本的な知識の上に、自分で考え判断したことを、口頭や文章で伝える表現力を持っている。読書や新聞を読む習慣を身につけ、語彙力や文章力を培っている。</p>

**【関心・意欲・態度】**

現代及び過去の社会に対する知的探究の意欲や関心を培い、また、多様な人々と協働して学ぶ態度を持っている。積極的に人間の活動全般に関心をもち、自分にできる社会参加の体験をすることも有用である。

学部等名 人間生活学部人間生活学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

（概要）

本学の教育理念であるキリスト教精神に基づいたリベラル・アーツ・カレッジとしての位置づけを踏まえ、「人間中心の生活学」を総合的な視点から研究・教授し、社会の要請に応える人材を育成することを目的とする。そのため、本学科では、人間・福祉・生活・環境・文化といった広い分野の有機的連携のもとに、人間性に満ちた、幅広い教養を持つジェネラリストの養成を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

（概要）

**【知識・技能】**

人間・福祉・生活・環境・文化の各分野の学びを通じ、人間性に満ちた、幅広い教養を持つジェネラリストとしての総合的な知識と社会の要請に応える実践力を有している。

**【思考力・判断力・表現力】**

人間の生活を多方面から学ぶことにより、多角的に物事を捉えることのできる視野の広さを備え、社会の変化に柔軟に対応できる思考力を持っている。幅広い知識を有機的に連携させ、人間生活に関わるさまざまな課題に関する情報を的確に分析・統合し、総合的に判断できる力を持っている。課題研究を通じて独自の視点から考察し、それを口頭及び文章の形で他者に論理的に伝える力を持っている。

**【関心・意欲・態度】**

社会人としての礼節とともに、他者への共感や奉仕の精神など、キリスト教的情操を身につけている。人と人との関わり、人とモノとの関わりを学ぶことを通して、人間としての生き方を深く考えようという意欲を有している。知識の背後にある人格価値を知り、他者の人格価値に共感できる感受性を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

（概要）

**【知識・技能】**

人間性に満ちた、幅広い教養を持つジェネラリストとしての総合的な知識と実践力をはぐくむため、学問の基礎を学ぶ「基礎科目」、演習・論文作成を中心とする「共通科目」、専門分野を学ぶ「専攻科目」を設ける。「専攻科目」は倫理学や福祉学など、人間に関する幅広い考察を行う「人間・福祉学コース」と、経営学、環境学、文化学など生活のあり方を総合的に考察する「生活・文化学コース」という2つのコースにより構成する。これにより、人間生活学科が重視する「人間・福祉・生活・環境・文化」分野の科目群を幅広く配置することを可能としている。

**【思考力・判断力・表現力】**

人間の生活を多方面から学ぶため、上記2つのコースの中に、人間関係学研究室、社会福祉学研究室、生活経営学研究室、生活環境学研究室、生活文化学研究室の5つの研究室を設ける。1年次から少人数制の演習で論理的な思考力を培い、2年次後半からは5つの

研究室のいずれかに所属し課題研究に取り組む。これを通じて専門性を深めるとともに、幅広い知識を有機的に連携させる力を養う。3年次からは少人数のゼミに分かれ、自らが選定したテーマに関する研究指導を受ける。このように研究関心を段階的に絞っていくことが可能なようにカリキュラムを構成している。課題研究を通じて卒業論文の作成、審査会での報告等を行い、思考力、判断力、表現力を総合的に高める。

**【関心・意欲・態度】**

人と人との関わり、人とモノとの関わりを学び、人間としての生き方を深く考える機会を十分に得られるよう、基礎・共通・専攻各科目を配置する。人と暮らしを見つめるといふ基本方針のもとで構成されたカリキュラムを通じ、学んだ知識の背後にある人格価値を知り、他者の人格価値に共感できる感受性を身につける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

国語，外国語，その他高等学校で学ぶ教科について，幅広く取り組み内容を理解し，高等学校卒業相当の知識を有している。

**【思考力・判断力・表現力】**

人間の生活を多方面から学ぶための読解・分析・発表・討論を行う高い理解・表現能力と，情報や知識を総合的に捉える論理的思考力を有している。

**【関心・意欲・態度】**

人と人との関わり，人とモノとの関わりを学ぶことを通して，人間としての生き方を深く考えることに強い関心を持ち，幅広い学問分野について他者と協働して積極的に学ぼうとする知的好奇心と強い意欲を有している。

学部等名 人間生活学部児童学科

教育研究上の目的 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

学科の英文名称，Department of Child Welfare の示すように，子どもたちの幸福(welfare)に資するよう，心理，医学，福祉，教育，文化，芸術等の領域から多角的な視野で子どもを理解し，子どもの成長・発達を援助できる人材の育成を目的とする。あわせて，みずから考え，主体的・自発的に行動し，高いコミュニケーション能力を備えた人材の養成も目的である。このような専門性と豊かな人間性を備えたうえで，幼稚園，小学校，特別支援学校の教員免許及び保育士資格等の取得を通して，社会の要請に応え，地域に貢献する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

児童学の6つの領域(心理学，特別支援教育・児童福祉学，文化学，教育学，音楽，美術)の基礎的知識を修得し，その上で自ら選択した領域についての専門的探究を深めている。また，こうした理論的・実践的な理解に基づき，人生の出発点にある子どもたちを教える者にふさわしい知識と技能を身につけている。

**【思考力・判断力・表現力】**

資料や情報を収集し，批判的に読み解くことによって，また子どもとかわる実践においても状況を多面的に把握することによって，新たな理解を生み出す思考力をもっている。こうした探究を遂行するための論理的思考力，実践的判断力と，その成果を他者に伝える

ことのできる表現力を身につけている。また、自らの理解や実践を振り返り、現実を改善していこうとする省察的な思考力を身につけている。

**【関心・意欲・態度】**

児童学において自らのテーマを探究することを通じて、生涯にわたる知的・実践的探究を進めていくための基本的態度をもっている。児童学の学びや子どもと出会う体験を通して、現代の教育現場におけるさまざまな課題を理解し解決していこうとする態度をもっている。また、ディスカッションを通して、主体的に学び、他者との対話の中で理解を深めていく態度をもっている。子ども達への共感と敬意を持ち、人間の多様なあり方を尊重しながら、ともに学び育ちあうことのできる態度をもっている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

1年次必修の「基礎科目」においては、児童学の6つの領域(心理学、特別支援教育・児童福祉学、文化学、教育学、音楽、美術)について学ぶ。また、「総合演習」の少人数教育のグループにおいて、研究・調査方法の基礎を学び、プレゼンテーションやディスカッションに主体的に取り組む。1・2年次では、学生自身の関心に基づいて自らの研究テーマを見出せるよう、6つの領域の講義を幅広く学ぶことで、それらの基礎的な知識を身につける。

**【思考力・判断力・表現力】**

3年次以降は、「児童学演習」を中心に、さまざまな科目を通して、自ら主体的に資料や情報を収集し、少人数でのディスカッションを通してテーマを探究する。また、6つの領域から一つを選択し、各研究室のゼミに所属する。「児童学演習」及び「卒業論文」(卒業研究)を通して、当該領域における専門的な研究方法と実践方法を修得する。4年次の終わりには卒業論文(または制作・演奏)を完成させ、発表する。これらの探究を通して、思考力・判断力・表現力等の能力を身につける。

**【関心・意欲・態度】**

上記のような講義や演習、少人数でのディスカッション等に加えて、本学科では1年次より、附属小学校・幼稚園でのボランティア実習をはじめ、通常の講義の枠組みを超えた体験の機会を用意している。2年次以降には、教職・保育職にかかわる実習(「初等教育実習」「特別支援教育実習」「保育実習」等)により、教員・保育士に求められる実践知を修得する。実習を通して子どもの実際の姿に触れて学ぶことは、児童学に関する他の科目を学ぶ上でも有機的に生かされる。これらを通して体験的な学びを支援することで、子どもへの理論的・実践的な理解を図る。他者とかかわり、協働しながら探究を深める体験を重ねることで、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を修得する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

子どもという存在を理解し、また子どもの成長に貢献するうえでは、幅広い知識と教養が必要である。高等学校等での学習に幅広く関心を持って取り組んでいることを求める。

**【思考力・判断力・表現力】**

子どもと、子どもを取り巻くさまざまな社会現象に関心を持ち、多面的な視点から思考を深め、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力をもつ方を求める。また、高等学校等での学習を通して、問題を解決するための思考力、判断力を養っていることを求める。

**【関心・意欲・態度】**

自ら主体的に考え、学ぶ意欲をもつとともに、他者の意見や価値観を尊重し、相互理解に努める態度をもつ方を求める。

学部等名 人間生活学部食品栄養学科

教育研究上の目的 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療、あるいは児童・生徒の栄養管理や栄養教育の推進に資する管理栄養士及び栄養教諭の養成を教育上の目的とする。食に関する高度な専門知識や技術はもとより、自らの専門分野をさまざまな角度から見つめ、「人間の栄養学」を真に理解することのできる高い知性と教養を培う。キリスト教的価値観と全人的人間形成を基盤に、人間性を備えた総合力のある管理栄養士や栄養教諭の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療、あるいは児童・生徒の栄養管理や栄養教育の推進に資することのできる管理栄養士及び栄養教諭としての知識と技能を身につけている。

**【思考力・判断力・表現力】**

自らの考え方に基づき、蓄えた知識や技能を、医療や教育の現場において適切に発揮するための、思考力・判断力・表現力を有している。

**【関心・意欲・態度】**

栄養の専門家として、高い倫理観をもち、人々の健康の保持増進に貢献する関心・意欲を有している。そのために、日進月歩である栄養学・医学の分野において、常に自己研鑽を継続する態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

はじめに、学科科目を理解するための基礎知識の修得を図る。その後、管理栄養士として必須である、食品と調理、社会・環境と健康、人体と疾病、栄養などに関する専門知識・技能を修得する。さらに、保健・医療・福祉の現場で使える実践力・応用力を身につける。また、児童・生徒の食生活と健康を守るために必要な栄養教諭としての知識と技能を修得する。

**【思考力・判断力・表現力】**

栄養のスペシャリストとして保健・医療・福祉や学校現場で活躍するためには、現場のニーズを読み取る深い思考力、幅広い知識を背景とした的確な判断力、そして、判断したことを実行するための力強い表現力が必要である。そのために、実験や実習を少人数のグループで実施し、思考力・判断力を高めるとともに、双方向性の授業形態により、学生の表現力を身につけるためのカリキュラムを組んでいる。

**【関心・意欲・態度】**

さまざまな方面で管理栄養士として活躍するためには、将来の方向性を定め、自らの社会的役割を理解する必要がある。本学科では、入学直後に専攻科目として管理栄養士論を

設け、「管理栄養士とは何か、どうあるべきか」について学生一人ひとりに問いかけている。このプロセスを経て、自ら関心を持った事柄に対して、意欲的かつ積極的な態度で、勉学に励むことができる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

**【知識・技能】**

栄養学の基礎となる化学や生物などの基礎学力とともに、コミュニケーションのために必要な高等学校卒業相当の国語力及び英語力を身につけている。

**【思考力・判断力・表現力】**

栄養学は、食と健康を結ぶ自然科学であり、人文科学である。食に関する膨大な情報の中から必要とされる要素を抽出し、体系化できる思考力・判断力、さらにそれを人々に伝えるための表現力が必要である。

**【関心・意欲・態度】**

食を通して人々の健康に奉仕し、疾病の予防と回復を促すのが管理栄養士の職務である。本学科では、人間や栄養に関する生命科学に興味をもち、人と積極的に関わり、人間を理解しようとする気持ちを持った学生の入学を期待している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[https://www.ndsu.ac.jp/about/univ\\_infor.php](https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	17人	17人	6人	1人	0人	41人
人間生活学部	—	16人	25人	3人	0人	4人	48人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		153人					153人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 学位一覧： <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php">https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php</a>  教員業績等 文学部 英語英文学科： <a href="https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42110">https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42110</a> 日本語日本文学科 <a href="https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42220">https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42220</a> 現代社会学科 <a href="https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42300">https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42300</a> 人間生活学部 人間生活学科 <a href="https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44100">https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44100</a> 児童学科 <a href="https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44200">https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44200</a> 食品栄養学科 <a href="https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44300">https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44300</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業評価アンケートを年2回、学生の自主学習に関するアンケート調査を実施し、その結果に基づき、学長諮問会及びFD等推進委員会において、教育改善について協議を実施</li> <li>・FD講演会及びシラバス作成に関するFD研修会を実施</li> </ul>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	200人	166人	83.0%	800人	877人	109.6%	若干名	0人
人間生活学部	270人	242人	89.6%	1,080人	1,148人	106.3%	若干名	0人
合計	470人	408人	86.8%	1,880人	2,025人	107.7%	若干名	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	247人 (100%)	8人 ( 3.2%)	222人 ( 89.9%)	17人 ( 6.9%)
人間生活学部	319人 (100%)	4人 ( 1.3%)	310人 ( %)	5人 ( %)
合計	566人 (100%)	12人 ( %)	532人 ( %)	22人 ( %)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 積水ハウス(株)、アヲハタ(株)、三菱電機(株)受配電システム製作所、四国電力(株)、(株)ベネッセインフォシエル、日本航空(株)、ANA 中部空港(株)、ANA 新千歳空港(株)、スイスポーティングジャパン(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)日本通運、三井住友信託銀行(株)、農林中央金庫、三井住友海上火災保険(株)、岡山県国民健康保険団体連合会、三井不動産リアルティ中国(株)、国立病院機構、大原記念倉敷中央医療機構、公私立学校教員、保育士、日本年金機構、(株)LIXIL Advanced Showroom、(株)JTB コミュニケーションデザイン、(株)NTT マーケティングアクト、国家・地方公務員				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	258人 (100%)	239人 ( 92.6%)	6人 ( 2.3%)	13人 ( 5.0%)	0人 ( 0.0%)
人間生活学部	326人 (100%)	313人 ( 96.0%)	8人 ( 2.5%)	5人 ( 1.5%)	0人 ( 0.0%)
合計	584人 (100%)	552人 ( 94.5%)	14人 ( 2.4%)	18人 ( 3.1%)	0人 ( 0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>シラバス作成にあたっては、毎年、シラバス記入要項に基づき FD を複数回開催している。シラバスの点検は本学独自のシラバス作成セルフチェックリストを作成し、作成者自身が確認を行うとともに、教務係職員及び各学科の教務担当教員が確認している。</p> <p>これらの取り組みにより、全学的に統一された様式で、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、毎年 3 月に公表している。</p>



⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記し、学生からの質問や疑問には各担当教員が対応している。 成績評価は、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）に対応し、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。 さらに、本学では、全学生に卒業論文を必修としている。卒業論文は4年間の学びの集大成として位置づけられ、その作成にあたっては、少数ゼミ方式で実施し、口頭試問など、きめ細やかな指導を行い、生涯にわたって知的・実践的探求を進めていくための基本的能力を涵養しており、その単位認定に当たっては、公開による論文発表会を開催し、厳格に審査している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	英語英文学科	124単位	有	49単位
	日本語日本文学科	124単位	有	49単位
	現代社会学科	124単位	有	49単位
人間生活学部	人間生活学科	124単位	有	49単位
	児童学科	124単位	有	49単位
	食品栄養学科	139単位	有	49単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： 成績等の評価とGPA制度について <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/research.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/research.html</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 履修科目登録単位数の細則（CAP制） <a href="https://www.ndsu.ac.jp/department/pdf/2019_doc_risyu_upper_limit.pdf">https://www.ndsu.ac.jp/department/pdf/2019_doc_risyu_upper_limit.pdf</a> 学生による授業評価アンケート集計結果 <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html">https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：[https://www.ndsu.ac.jp/life/campus\\_map.html](https://www.ndsu.ac.jp/life/campus_map.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	英語英文学科	710,000円	200,000円	325,490円	
	日本語日本文学科	710,000円	200,000円	325,490円	
	現代社会学科	710,000円	200,000円	325,490円	
人間生活学部	人間生活学科	710,000円	200,000円	328,490円	
	児童学科	710,000円	200,000円	328,490円	
	食品栄養学科	710,000円	200,000円	329,490円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・所属学科の専任教員が「アドバイザー」として配置され、学生一人ひとりの修学、進路等の諸問題に対応できる体制を整備している。</li><li>・年2回、学生の詳細な単位取得状況に基づき、各学科のアドバイザーが学生と面談し、修学指導等の必要な措置を取っている。</li><li>・インターネット上に学生個人のポートフォリオスペースを確保し、学習記録を蓄積することで、学習活動の振り返りが可能であり、また、教員と情報共有ができる環境を整えている。</li><li>・保護者への成績通知を年1回（2019年度から年2回の予定）行っている。</li></ul>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一般企業や公務員への就職を目指す学生を支援するために設置された「キャリアサポートセンター」の取組<ol style="list-style-type: none"><li>1) 常勤センタースタッフ3名と相談員3名による手厚い進路相談体制が整備されており、年間相談実績は約3,200件</li><li>2) 学内で開催するガイダンス・セミナー等を年間約60回開催</li><li>3) 学生一人ひとりの実践力を高めるため、少人数で行うワーク形式のミニセミナーを年間約120回開催</li></ol></li><li>・教職・保育職を目指す学生を支援するために設置された「教職支援センター」の取組<ol style="list-style-type: none"><li>1) 学生相談室を開設し、教職の経験豊かな6名の相談員が、教育実習への悩みや採用試験へのアドバイスなどへの対応</li><li>2) 教員採用試験等の資料を揃えた教職学生閲覧室を設置し、学生の情報交換の場として活用</li><li>3) 採用試験対策として、筆記試験などの1次試験対策と面接などの2次試験対策を実施。</li><li>4) 卒業生に対するサポートとして「情報交換会&amp;学習会」や「教員採用2次試験対策講座」を開催</li></ol></li></ul>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保健センターに学生相談室を週4日開設し、心身の健康や学生生活上の諸問題について臨床心理士が相談に応じている。</li><li>・心身の健康上の理由により、授業等に特別な配慮を必要とする場合、アドバイザー等と相談のうえ要特別配慮学生申請することにより、特別な支援を受けることが可能となっている。</li></ul>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ノートルダム清心女子大学に関する基本情報をホームページ上で公開 <a href="https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php">https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php</a></li><li>2 学術機関リポジトリ <a href="https://ndsu.repo.nii.ac.jp/">https://ndsu.repo.nii.ac.jp/</a></li></ol>
--